

大島紬絣文様集小中柄（飛び柄）の発刊

大島紬部 ○徳永 嘉美

1. はじめに

大島紬の絣文様は、世界に類を見ない精緻で独特なもので、その絣から生み出される文様は地域の文化であり、先人から受け継がれてきた歴史的な遺産でもある。当センターでは、これらの絣文様を調査復元し体系化を行っており、これまで絣文様集として、小柄（伝統柄）、小柄（無銘柄）を刊行してきた。本年度は、小柄の次に登場した小中柄（飛び柄）を復元し、Vol.03として発刊した。

2. 研究概要及び結果

2. 1 大島紬絣文様集小中柄（飛び柄）

日本各地の織物産地における絣文様は、少なからず南より伝播された琉球絣の影響を受けている。それに対して大島紬の絣文様は、明治になり絣締め機の発明で独特な文様が生み出され、世界に類を見ない精緻な絣文化を育むこととなった。絣締め機の開発当初は小柄しか製造できなかったが、緯絣の交代締めが考案されると徐々に柄が大きくなり、小中地空きの飛び柄が登場したのは明治後期頃とされている。大島紬発祥の地である龍郷及び笠利地区を中心に、喜瀬飛び・赤木名飛びに代表される小中柄が盛んに製造され一世を風靡した。その名称も産地名などが付けられている。編纂方法として、小中柄は規則的な絣配列構成であるため、絣配列が不規則となる小柄のように織組織の分解図を必要としないので、織上がり表現する仕上がり想定図のみの223柄を復元図録した。刊行した絣文様集と内容の一部を図1に示す。



図1 大島紬絣文様集小中柄（飛び柄）

2. 2 コンピュータによる仕上がり想定

絣文様集は、正確な仕上りの想定図が最も重要である。前集の小柄は、汎用の画像処理ソフトであるイラストレータを活用できたが、今回の小中柄は図柄が大きいので、小柄で用いた織組織の分解図から正確な仕上りを想定する手法は、多くの情報量を必要としたため使用できなかった。そこで今回は、大島紬専用の設計CADシステムを用いることとしたが、最新のWindows版CADでは長絣の絣表現に不備があったので、まず旧タイプ（MS-DOS版）で図柄を復元した。次にそのデータをさらにWindows版で取り込んで、画像データへ変換する手法を用いた。

2. 3 コンテンツ

飛び柄は製造された各地区でそれぞれの特徴がある。22のコンテンツと仕上がり想定を図2に示す。

3. おわりに

小中柄は、大島紬の古典をイメージさせるにふさわしい文様であり、そのデザインは同柄の繰り返しとなる割り付け柄であるため、近年の他品種少量生産にも対応できることになる。この基本柄を基に応用展開できるよう絣文様集を編纂した。本絣文様集作成にあたり、ご協力頂いた関係者の皆様に感謝の意を表する。

コンテンツ	仕上がり想定図		コンテンツ	仕上がり想定図	
+			トンボ		
小			女		
井			米十		
浦			ゼン		
カザモシヤ			赤木名		
山道			花		
ツガ			赤十字		
喜瀬			トネ		
ガシチ			車		
星			道引き		
龍郷			割込		

図2 コンテンツと主な仕上がり想定